

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 鷹 匠	(ふりがな) たかじょう	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	鷹 匠		
伝承地域	福島市飯野町		
由来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>鷹狩りは鷹などの猛きん類を使った狩猟で、世界各地で古くから行われており、日本では日本書紀にも記録されている。貴族や武士階級では権威の象徴的な意味を持ち、江戸時代には、軍陣の演習として多くの大名の間で行われていた。東北地方では山間農民の間でも行われていたが、現在では技術の後継者は少なくなっている。</p>		
内容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>鷹狩りは、オオタカなどの猛きん類を使い、キジ・カモ、ウサギなどの小動物を獲物とする猟である。猟は1月～3月までの冬に行われるが、銃猟などに比べるとはるかに猟果は低い。オオタカは鳥類の自然の食物連鎖の頂点にいる鳥で、タカを自在に操る鷹匠による鷹狩りは、自然との融和の中でおこなわれる。タカは雛から育て、いくつもの段階の訓練を積み重ねる。訓練の過程で重要なことはタカの体調管理であり、タカの体格を確認しながら絶食と餌やりを調整し、猟に適した体重に仕上げる。また、タカを人との関係に慣れさせるために、飼育小屋の中で音に馴れさせ徐々に外に出す。夜から始め朝、昼と周りの環境に馴れさせ、明るい所や人や車の往来する市街地でも驚ないように訓練する。環境にも慣れ人と一体になる事をタカをほぐすという。最後に、鳩を獲物に見立て獲物にかかることを教える。鷹匠の手の拳に安定して乗り、飛び出すときの足離れもスムーズにタカの習性を素直に発揮できるようになって初めて実猟へ向かうことができるようになる。</p> <p>実猟は勢子が鷹匠の前を歩き、藪を棒で叩き獲物を追い出す。追い出された獲物に向けて鷹匠はタカを飛ばす。タカは獲物に飛び掛かりしっかりと押さえる。人鷹一体となった動作で猟は行われる。</p>		
文化財等の指定状況	平成18年度「森の名手・名人100人」(国土緑化推進機構)に選定		
問い合わせ先	電話		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)	高木 利一	※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女 65 歳 昭和 24 年 生	
	住所	福島市飯野町	
	職業		
団体	団体名 (ふりがな)		
	代表者氏名 (ふりがな)		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日
	問い合わせ先		電話

キーワード

鷹匠の技

- 「振り替え」 鷹匠の手からほかの師匠の手へタカを飛び移りさせる技
- 「渡り」 立木に放ったタカを鷹匠の手まで呼び戻す技
- 「羽合わせ」 鷹匠が獲物に向けてタカを投げるように放つ技

訓練

訓練は、タカに足革という皮ひもや、鈴などの道具を付けることから始まり、体重調整のため一度にたくさんの餌を食べないように嘴を削り、足の爪を切る。

「喰い付けせ」と「詰め」

狩りに適した体重にするため、絶食のあと適切に餌を「喰い付けせ」体形が適切か「詰め」といって確認する。タカの胸筋の太り加減のことを「肉色(しし)」という。

「夜据え」

タカ部屋内で、餌を与えながら「ホウホウ」と声をかけ、足音やほかの音に馴れさせる。

「据え回し」

タカ部屋から徐々に外に出し、夜から始め朝、昼と移し、燈火の下を通過する「燈火仕込」、人や車とすれ違う「車仕込」市街地を回る「町据」を行い、日中の環境に慣れさせる。

「渡り」

小屋飼いは筋肉が野生より弱いので、外で飛ばして手元に呼び戻すことを繰り返し飛ぶ筋肉を付けていく。

「丸嘴(まるばし)」

杭にひもで鳩を結び、鳩を見せ隠して獲物に飛びかかる訓練を行う。

「振り鳩(ふりばと)」

獲物を空中で掴むための疑似猟で、忍縄(おきなわ)を付けた鳩を振り回しタカに掴ませる。



訓練を終えたオオタカ



鷹匠の手から放たれるオオタカ



獲物を押さえこむ
オオタカ

鷹匠 高木利一さん 日本放鷹協会会員